

名前

田邊 浩

専門分野

会議での役割

議論研究者



A班の提言へのコメント・意見



A班の提言のポイントは、「自閉症」に対する社会的理解が欠如しているということにある。これは出発点としてきわめて重要な認識であると思う。自閉症に関する問題(社会的)の多くはこのことに起因すると思われる。私たちは、こうした状況を変えるために、まずは、一般の人々の「自閉症」理解に関する調査研究を進めている。



B班の提言へのコメント・意見



自閉症にやさしい社会のための提言として、多くの班で共通したものが提出されている。そうではあるが、B班では特に「自閉症は1人ひとり異なるものである」ということに焦点があてられている。1人ひとり異なったものに対応することはきわめて難しいものであり、このことも自閉症の問題解決を困難にしている一つの大きな要因であると考えられる。



C班の提言へのコメント・意見



金沢ならではの特色を生かしたサポートシステムとして、金沢における公民館、町会などのコミュニティが指摘されている。近年、コミュニティの再構築が大きな社会的課題となっており、金沢においてもコミュニティの衰退がみられるが、それでも金沢におけるコミュニティはまだ力を有しており、モデルケースとして興味深いものになる可能性を秘めていると考えられる。



D班の提言へのコメント・意見



自閉症への理解が不足していることへの指摘はA班と共通しているが、正確な実態調査を提起している点はきわめて重要であると思う。これを実施することには多くの困難がともなうかもしれないが、様々な分野の研究者が協力して早急に取り組む必要があるかと考える。

就労、自立が最終的な目的とされているが、この点は疑問が残る。このことが本当に自閉症当事者の幸せにつながるものであるのかよく検討してみななければならない。



E班の提言へのコメント・意見



E班においても、自閉症にやさしい社会の実現のために、自閉症に対する社会全体の理解を向上させることがあげられている。多くの班において指摘されていることからわかるように、このことが重要であるということは共通認識になっていると思われる。問題は、では、いかにして自閉症に対する理解を広め、深めていくかということである。この点について、研究を進めていかなければならない。



F班の提言へのコメント・意見



F班においても、自閉症者の就労・自立が自閉症にやさしい社会実現のために必要な目標とされている。だが、D班のコメントにおいて指摘したことであるが、本当にそうであるのか？この点についてよく検討する必要がある。私には、近代の枠組みに過剰にとらわれたものであるように思われる。自閉症にとって、あるいは、現代に生きる私たちにとって何が幸せなことであるのか、根本的に考え直す必要がある。コミュニケーション能力偏重社会という指摘もあるが、このことが避けえないことであるのか、不可逆的なことであるのか、あるいは別の可能性もあるのかは、十分に研究されるべきことであろう。自閉症のみならず、これからの社会のあり方を考えるうえで、興味深く重要な論点であると思われる。